



男女共同参画推進室ニュースレター

olive heart

男女共同参画推進室 移転

学内施設の改修に伴い、昨年7月に男女共同参画推進室は隣の部屋に移転しましたが、来る5月9日に元の場所、現在の位置の東側に引っ越します。

元の場所は床がカーペット仕様となっていますので、靴を脱いでゆったりとご利用いただくことができます。また、クッション性や安全性（滑り難さ・衝撃吸収性）に優れておりますので、託児スペースの「香大っこルーム」では快適にお子様とお過ごしいただけます。

引き続き男女共同参画推進室をよろしくお願いいたします。



看板・掲示物を目印
にお越しください



エレベーター横のお部屋
これまでの推進室の東側
になります

目次:

- 推進室の移転..... 1
- 第1回男女共同参画シンポジウム
開催報告.....2-5
- 介護講座報告.....6
- 休憩室追加整備..... 7
- 病児・病後児保育室利用者範囲拡大..... 8
- 退任挨拶..... 8

第1回香川大学男女共同参画シンポジウム開催報告

平成26年2月14日(金)、香川大学研究交流棟5階研究者交流スペースにて第1回男女共同参画シンポジウム「優しい環境の香川大学へ」を開催いたしました。雪が舞う天候の中、第1部シンポジウムは72名、第2部ランチ交流会は80名、第3部ワールド・カフェ（内閣府・香川県事業「平成25年度地域における女性活躍促進事業」）は64名の方にご来場いただきました。

開会にあたり、長尾学長より「香川大学は平成22年度に科学技術振興調整費“女性研究者支援モデル育成事業”に採択され、3年間の事業取組の間に女性研究者比率19.4%と中国四国の国立大学でトップになるなど、大学が一丸となって取組んできた結果、先日の事業評価では全ての項目でA評価をいただいた。社会情勢は女性がいかに社会に参画していくかに向かっていると、そのような流れを受けて、香川大学のみならず、行政、団体、地域において女性管理職が増えて女性が活躍いくことを祈念している」と挨拶がありました。

また、香川県の総務部県民活動・男女共同参画課の江森課長からは「香川県と香川大学とは平成14年に包括連携協定を締結し、希少糖などの研究をはじめ、各分野での連携・協力を行っており、このように男女共同参画分野でも連携できることを感謝している。県内で活躍されている女性のネットワークを目的に作成した冊子、“輝く女（ひと）in かがわ”に掲載されている女性が、本日、県庁ではなく、香川大学で集うことに非常に意義があり、うれしく思う。男女共同参画推進には行政だけでなく、大学、企業など様々な団体の力を借りながら推進を進めていく必要があると考え」とご挨拶をいただきました。

続いて長安副室長から本学における男女共同参画の取組概要の報告がありました。学長を委員長とした各部局長から構成される男女共同参画推進委員会を組織し、その中に男女共同参画推進室が位置づけられ、学長の強いリーダーシップの下、トップダウンという体制があったので事業をスムーズに実施できたと報告されました。また、女性研究者支援員・育成員という形で各部局から選出された男女共同参画推進室員のサポートもとても大きく、教授会等、様々なところで男女共同参画に関わることを発言して下さったこと、さらに研究協力グループ、人事グループ、給与福利グループの協力のもとで取組を進められたこと、これらの全学的な推進体制の構築が香川大学の評価に繋がったと話しました。

一部局代表による取組報告

各部局代表による取組報告では部局で実施された豊かな特色ある取組が報告されました。報告の最後に肥塚法学部長は「学生及び教員が相互に尊重しつつ意見が言える“安心して安全な気持ちよく学習・働ける場”にしたい」と、大野経済学部長は「女性、男性と一緒にバランス良く学部構成員となって明るい学部になるように努めていきたい」と、森医学部長は「アンケートなどで出された意見を参考に女性医師・看護師の定着しやすい環境づくりを行っていきたい」と、中西工学部長は「教職員がいきいき働ける環境づくり、女性教員・女子学生を増やすことを目指して組織・社会の意識改革、男女共同参画への支援を考えていきたい」と、片岡農学部長は「複雑化する現代社会にあっては多面的な視点が求められている。その意味で男女の共同が欠かせない。前学部長である早川理事が蒔かれた種がようやく芽を出してきている、この芽が大きく育っていくように努めたい」と、語られました。山神教育学部長代理、岡教授は「小学校教員養成の充実強化のために女性教員のさらなる採用を考えていきたい」と力強く抱負を語られました。

香川大学
第1回 香川大学男女共同参画シンポジウム
優しい環境の香川大学へ
～働き続け、学び続けるあなたを応援します～
2014年2月14日(金)10:00～15:30
香川大学 研究交流棟5階 研究者交流スペース(奉迎キャンパス)

第1部 10:00～13:00 定員100名
10:00 開会 挨拶及び来賓紹介
10:05 本学における男女共同参画の取組概要
10:25 各部署代表による取組報告
10:55 男女共同参画課長による講話の他、
・学生・教職員の活躍への支援
・学生・教職員の活躍への支援
11:25 オールハンドブック 概要式
11:40 グストミスターによる挨拶
12:00 第一セッションの閉幕

第2部 13:15～13:15
12:15 ランチ交流会 食会、教談
12:45 香川大学の女性の活躍報告
・スチューデント代表の報告
・香川大学の女性研究者報告
ランチ交流会中継の申込締切の打切り

第3部 13:30～15:30 定員 80名
13:30 ワールド・カフェ 輝く女(ひと)in かがわ
内閣府「平成25年度地域における女性活躍促進事業」
香川大学男女共同参画推進室主催

※どなたでもご参加いただけます。
お問いの際は、各局の交番係にご確認ください。

入場無料
E-mail: gao@shikoku-u.ac.jp
TEL: 087-833-2055 FAX: 087-833-2057
E-mail: tankaku-room@shikoku-u.ac.jp



長尾省吾 学長



香川県総務部県民活動
男女共同参画課 江森課長



司会の男女共同参画推進室副室長
工学部 石井教授



司会の医学部看護学科長
清水教授

男女共同参画における課題の改善について、6回のアンケートを実施し、回答した1,455名教職員の内、928名が満足と回答したこと、そのアンケートで出されたご意見・要望を取組に変えていったことが長安副室長より報告されました。また、課題として「求められる男性への支援」と「介護との両立」が挙げられ、それぞれの改善策を説明しました。さらに、香大っこサポーターの育成と活躍について、託児という子どもたちの触れ合いを通じて、大人として責任を持って判断・解決していく経験を積んだり、保護者との交流による多様なロールモデルとの出会いや、香大っこサポーターの活動は学生に貴重で豊富な経験を得る機会であることが説明され、今後もこの取組を継続し、展開していきたいと話しました。

肥塚法学部長



大野経済学部長



森医学部長



中西工学部長



片岡農学部長



山神教育学部長代理 岡教授



男女共同参画担当の早川理事からは「香川大学の中期目標にあるように、多様な人材を登用して組織の活性化を図り、男性も女性も協働して安心して仕事ができる環境づくりをしていく。それによって事業の継続、香川大学の活性化が図れる。また、そのような環境を作るということを見せることで、学生たちが将来、研究者を目指したり、いろいろなところで活躍する気持ちを鼓舞することや動機付けにも効果がある」と考える。最後に、事業評価でS評価を得た他大学では学外、民間との協力を大きく進めているという評価もあり、今後、香川大学においても学外との連携・協力を強めてさらに男女共同参画を進めていきたい」と挨拶がありました。

ーオリーブハート賞ー

その後、表彰式が行われ、長尾学長より10名にオリーブハート賞が授与されました。地域子育て支援士認定資格を取得し、香大っこサポーターとして活躍している3名、短期学童保育サマースクールに多大なご協力をしてくださった3名、県の参画事業に協力している学生団体、女性研究者の次世代育成に貢献した教員、女性職員のロールモデルとして活躍し、女子学生の支援に寄与した職員、休日出勤時の託児・サポーター養成にご尽力くださった民間ボランティアさん、それぞれの活動を通じて、香川大学の男女共同参画を大きく推進していただきました。



男女共同参画推進担当
早川理事



男女共同参画推進室副室長
長安コーディネーター

オリーブハート賞 受賞者

★地域子育て支援士取得
香大っこサポーター
植村結花さん
森山真衣さん
横井陽香さん

★短期学童保育サマースクールに協力
チアリーディングサークル
代表代理 押尾南美さん
工学部の山中稔准教授
山中研究室の西脇大祐さん

★県の参画事業に協力
学生団体cocokara代表の
越智祐介さん

★女性研究者の次世代育成に貢献
農学部野村美加教授

★女性職員のロールモデル
女子学生支援に寄与
学生生活支援グループの
宮下真来枝サブリリーダー

★香大教職員の託児支援
託児ボランティアあゆみ
代表 梶ヶ谷真知子氏



ーゲストコメンテーター 國井 秀子氏の講評ー

第1部の最後にゲストの芝浦工業大学学長補佐・男女共同参画推進室長の國井秀子氏から次のような丁寧なご講評をいただきました。

「全体として非常に幅広く、地域を巻き込んで活動され、また数値目標も達成され、素晴らしい評価も得たことは皆様のご努力の賜物と敬意を表する。

長年企業で働いたので、そういう観点も含めて大学だけでなく社会から見てということでコメントさせていただきたい。社会地域を巻き込んでの活動を幅広くされていて、地域のお子さんも巻き込んで行われていることは素晴らしい。やはり男女共同参画は大学だけの話ではなく、社会の変革の先端となって、先進的に広がっていくことが重要である。大学の中の女性研究者比率を上げる、WLBの話、女性研究者も男性研究者と同じレベルで活動できるように環境を整える、といろいろとあるが、地域の中での大学ということ意識することは極めて重要である。内閣府の男女共同参画推進連携会議の議員として地域と協働してどう発展させるかを議論しており、そういった観点から香川大学の取組は非常に良いと感じる。

この活動で非常に重要なことはトップからのメッセージ、トップ自ら動くということ。学長先生もそうだし、学部長先生方も組織的に動かれているということが評価されているポイントだと考える。よくあるのが男女共同参画推進室が一生懸命やっているけど、他のところはしらっとしているといったことが日本全体としてまだまだ多い中、これだけ皆さまの意識が高く、動かれているということは、今後についても大きく発展すると期待できる。平成26年度の女性教員が増えるという話も伺い、さらに花開いていくと感じる。

病児保育や一時保育、休日出勤時の託児など、このようなことが日本全国で広がらないと人口の半分の女性の力を引き出すことができないと感じた。このような素晴らしい活動を全国の大学に、また、地域の中で広げていただければと思う。

次世代のための活動も含めてされていて、それぞれの活動がばらばらにということではなく、連結・インテグレートされていることが素晴らしいところ。オリーブハート賞でいろんな活動をご紹介いただいたが、これは香川大学のパワーである。いろいろな面で地域とともに歩んでいることをひしひしと感じ、トップダウンで組織を大きく巻き込んでやっていくことの重要さをあらためて認識した。

先日の女性技術者のエンパワーメントを推進するシンポジウムでも議論したところであるが、海外の株主は女性比率が低いところは成長率が低いと認識している。工学系の機械・電気電子分野では女性を採用したいと思っても女性がいらない。製造業に限らず、サービス分野においてもニーズはどんどん変化しているので、ニーズにあった教育を行い、女子学生を増やしていくことが女性比率を上げることにつながる。新規に採用したい分野で女性を獲得できれば、企業としても女性比率が上がり、多様性も上がってくる。グローバルに海外とやり取りする際もそれは評価される。大学のランキングでも女性比率・教員比率・学生比率は重要なファクターになっている。単純に量的拡大よりも、分野を見ての拡大が重要であり、それは産・官・学で連携して実現していく必要がある。さらに、女性に対してリーダーシップ教育をきっちりやっているかが重要である。

香川大学では女性が元気があるから必要ないかもしれないが、企業に入ると、リーダーシップ教育を受けている学生と、そうではない学生とで全く違う。世の中に出ると性別の役割分業論が強く、一歩、企業を出ると良妻賢母であってほしいという文化がいまだに残っている。そのような中でどう社会に貢献するか悩む人が多く、その時に学生時代にどれだけ社会に対して認識を持っているかが重要。単に技



術的なことだけでなく、いかに役に立っているか、社会の進歩がどうあるべきか、どちらを向いているのか、何をすべきなのかということを知っておかないと、女性が足をひっぱられる。男子学生より、パワフルにそれらの教育をしておかないと、せっかくの優秀な能力を活かせないということが多々ある。男子学生の方が元気がないとされるが、企業に入ると逆転する。入社の際に女子学生はすごく優秀だと言われるが、数年経過すると明確に差が出てくる。この差を作らないようにぜひとも社会的認識を持っていただくことをお願いしたい。

ポジティブアクションの中で、女性からも逆差別と言われ、ポジティブアクションがやりにくい、暫定的な是正措置でさえやりにくいという声がある。一般的に個人のレベルでポジティブアクションを取ると、“ポジティブアクション枠で昇格したと思われたくない”、“採用されたと思われたくないので嫌だ”と言う人がいる。それは個人の視線だけでしか見ていない。社会でこれだけのギャップがあること、それを是正することが全世界から求められている。先進国日本がこのようにひどい状態、136中105位である日本のジェンダーギャップを変革するのは大学のミッション。大学が社会改革の意識を学生たちに提供していかないといけない、これは分野に関わらない。全ての分野でそういう教育を共通してやっていただきたい。直接学生と接する指導教官から一言言っていただくことは極めて重要。ぜひ卒業生のケアもお願いしたい。

香川大学の男女共同参画の取組はすばらしい体制の下、展開されているのでこの取組を継続して実施していただければ、申し上げることはないが、プラスお願いしたいことは、一企業でできないこと、業界・団体でもできないこと、それは若いうちの意識の変革、これを是非ともお願いしたい」と結ばれました。



ゲストコメンテーター
芝浦工業大学学長補佐
男女共同参画推進室長
国井 秀子 氏



第2部 ランチ交流会の様子



第3部 ワールド・カフェの様子



—第2部ランチ交流会—

第2部のランチ交流会はカフェ形式で実施し、香川県内の大学・企業・行政・市民の方たちが和やかな雰囲気の中、軽食を共にしながらそれぞれの夢や希望を気軽に語り合える場となりました。ランチ交流会の中で、スカンジナビア・ニッポンササカワ財団から助成を受けてスウェーデンに派遣された農学部技術補佐員の滝川祐子さんから報告がありました。男女平等ではあるが、それだけに能力主義であるスウェーデンでの調査研究で得た成果をシェアしました。また、昨年度、香川大学女性研究者研究交流会上に講師として来学していただいた鮎恵子教授（スウェーデン王国ヨーテボリ大学医学細胞生物学）を訪問し、鮎先生とのヒアリングを通して受け取った大きなエネルギーを女性研究者に還元されていました。そして、香川大学で優れた研究に取り組む女性研究者が紹介され、女性研究者たちは会場に熱いメッセージを届けてくださいました。

各学部の取組内容はポスターにまとめられました



今から備える、男性も女性もみんなのための介護講座開催報告

「男の介護を生きるあなたへ～おひとり様でもおふたり様でも～」

講師：津止正敏氏 立命館大学大学院教授／男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局長

日時：平成26年2月3日（月）15:00～17:00 会場：研究交流棟5階 研究者交流スペース

参加人数：33名（男性:19名 女性：14名）



講師 津止 正敏 教授

2月3日（月）研究交流棟5階において、「今から備える、男性も女性も、みんなのための介護講座」と題して、立命館大学教授で「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」の事務局長の津止教授をお招きして介護講座を開催しました。「老老介護」、「息子介護」、「シングル介護」、「遠距離介護」、「週末介護」、「夫婦介護」、男性も女性もそれぞれの立場の中で、仕事と介護の両立を健やかにどう図り、どう備えるか、を男女共同参画の課題として考えようという企画でした。

前半の津止教授の講演では、少子高齢社会が進んできた社会は、すでに家族をひとまとまりとは考えない個別化社会であり、以前は家族単位で行っていた様々なことを外部に委託せざるを得ない外部化社会であること、介護をめぐる環境は10年前と比べてかなり老老介護が増え、男性介護者が急増しているというデータが示されました。

現在最も深刻な課題は、介護しながら働く人の負担がとて大きいこと、また介護退職者がここ数年でかなり増加しているということでした。介護と仕事の両立についての具体例はとて深刻で強烈な印象を受けました。しかしその大変な事例の紹介の後には「介護感情の両価性」も紹介されました。介護には「負担感」と「喜び」が同時に存在するものであり、負担も感じるが喜びも感じるのだというものです。「一日の介護で心身ともに疲れていても妻の微笑みをみるとき唯一慰められる」「時々妻が思い出したようにお父ちゃんごめんねというのがうれしい」などのエピソードは、家族のきずなを感じさせてくれる温かいものでした。最後に、本人と、介護する家族を含めた介護の社会化が必要であることなどが述べられました。

後半は津止教授と、認知障害を持つ高齢者へのケアの専門家である本学医学部看護学科学科長の清水裕子教授との対談が行われました。フロアの質問に答える形で、お二人のお話が進められました。

男性介護者の虐待（ネグレクト）の問題では、知識不足や環境によっていつ誰が虐待加害者になってもおかしくないのが、虐待を起こさせないサポート体制の構築が大事であることが述べられました。また家事一般を全くしたことがなかった男性介護者の苦労話や、被介護者からの暴力の問題などが取り上げられました。介護する側と介護される側との葛藤なども津止教授から紹介されました。また家族だけの介護には限界があることから、専門職との連携が重要であること、話をしっかり聞いてくれるケアマネージャーが頼りにされていることなどが紹介されました。

香川大学の教職員も外部の方からも、内容がよかった、とて勉強になった、実際母の介護をしている父の話をもっと聞いてあげなくては、という感想や、ぜひ今後も介護の講座を開いてほしいというご希望もいただきました。外部の施設勤務の方からは、支援する立場としてとて参考になったという感想や、香川県の実態、今後の介護社会のあり方へのご意見がありました。

最後に教育学部の山神眞一学部長がお礼の挨拶とともに、ご自身の体験も含めてもって勉強していきたいと述べられ、早川理事の挨拶で会を締めくくりました。ご参加くださった皆様ありがとうございました。



医学部看護学科学科長 清水教授との対談



山神教育学部長



早川理事

休憩室追加整備を行いました

学内環境整備の一環として乳児の授乳や搾乳ができ、なおかつ、幼児が一時的に補助者と安全に過ごせる共有スペースを作ることで、教職員及び学生の仕事・学業と子育ての両立を支援しています。

今回、平成22年度に整備した各部局の休憩室の再整備を行いました。学生サポーターやベビーシッターによる子どもの短時間の預かりも可能なコーナーとして休憩室が機能することを目指しています。

幸町本部休憩室



Before



After

本部休憩室の入口



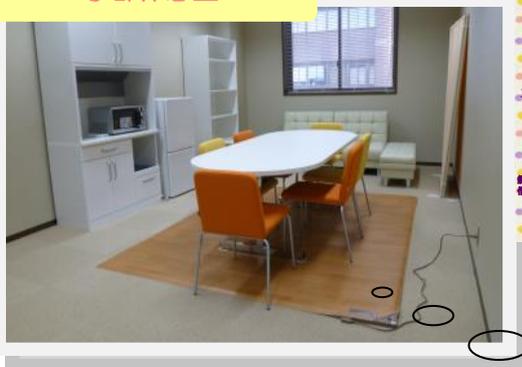
教育学部休憩室



カーボンヒーター、T-fal
浄水器、座布団を追加



工学部休憩室



林町キャンパスの女性教職員のための
女性支援室
みんなで楽しい、ほっとできる素敵なコーナー

工学部管理棟3F
4303室

冷庫庫・電子レンジも完備。体調不良や妊娠中のときの外出前、復職後の育児、子どもの預けスペースにもお使いください。

御意見、御要望は男女共同参画推進室工学部職員までお願いします。
石井 例(内線2321) | hirai@eng.kagawa-u.ac.jp
金床 美穂子(内線2142) | kamatsuki@eng.kagawa-u.ac.jp

ホットカーペット
を追加

学部長を囲んで交流会開催





病児・病後児保育室

詳細は、医学部総務課職員係へお問い合わせください。

●医学部総務課職員係

087-891-2014
内線：66+2035
66+2034

●病児・病後児保育室

087-891-2488
内線：66+3889

病児・病後児保育室、利用者範囲拡大！！ 工学部・農学部地区職員も利用可能へ

- 対象年齢：生後2ヶ月から小学校4年生まで
- 保育時間：8時から18時まで（前日予約の場合）
※土日・祝日・年末年始等は休業です。
受入不可と判断された場合はお預かりできません。
- 保育料：1日あたり2,000円（給食・おやつ代は別途）
- 受診付添代行料：1回あたり2,000円

ご利用の流れ

[事前登録]→[病児・病後児保育室へ連絡]→[利用申込]→[当日]→[保育開始]→[保育終了（代金支払）]



環境整備、さらに加速

平成25年度大学運営特別経費を活用し、工学部本館福利・図書館棟1階多目的トイレにベビーシートを設置しました。



【生協入口の左側にあります】



【おむつ交換台のステッカーが目印です】



【性別に関係無くご利用いただけます】



長安先生、大変お世話になりました。

ありがとうございました。



olive・heart

香川大学 男女共同参画推進室

香川県高松市幸町1-1
北5号館1階

電話：087（832）1055
内線：1055
ファックス：087（832）1057

http://www.kagawa-u.ac.jp/
sankaku/

sankaku-room@ao.kagawa-u.ac.jp

退任のご挨拶

男女共同参画推進室 コーディネーター 長安めぐみ

平成22年10月1日、マリンライナーが事故で遅れ、岡山から高いタクシー代をかけて着任した日から、もう3年半が経ちました。きれいな海と可愛らしい山々に囲まれた香川大学の暮らしの中で、先生方や職員の皆さん、学生さん、スタッフ、関係機関の方々と沢山のステキな出会いをいただき、のびのびと楽しくお仕事をさせていただきました。

男女共同参画は、だれもが幸せになれる社会を作るために、今、欠かせないものです。色々な立場の人が大切にされ、自分を発揮できる場を与えられること。安心して安全に心地よくコミュニティの中で暮らしていけること。そんな当たり前のことにいつも目を配るのが男女共同参画推進室のお仕事です。でも、この当たり前がなかなか手ごわいのです。

香川大学の男女共同参画推進の大きな実績は、色々な立場の方に「大学でも声を上げてもいいんだ」と思っていただけでした。子育て中の若い職員から、介護に取り組む管理職の方まで、ライフステージの中で、性別や未婚既婚にかかわらず、しんどい場面は必ずやってきます。いつも頑張っている人ほど、しんどい危機的な状況に追い込まれてしまいます。そんな時、そっと寄り添える男女共同参画推進室であってほしいと願っています。

最後に、この事業で採用されたたくさんの女性たちが、楽しく力強く活躍できることを願いながら、ご挨拶にかえさせていただきます。本当にありがとうございました。